

●木々の青さが一段と増し、緑あざやか

基本はステイホームですが、息抜きも必要です。対策をしっかりとったうえで、密を避けて、とどまらず、てくてくお散歩程度の利用にご協力ください。

○木々が花を咲かせています

●駐車場では①ベニバナトチノキのピンクがきれいです。同じ仲間で白色の花が咲く②トチノキは、樹高が高く栗に似た実（種子）は栃餅などに利用されることでも馴染みですね。トチノキよりもさらに大きく、石垣沿いに並ぶ③ユリノキも、この時期にかわいい花を付けます。ちょっと見上げて探してみましょう。



①ベニバナトチノキ



③ユリノキ



②トチノキ



①ベニバナトチノキ



④キリ

○実は花も美しいキリ

●高級タンスなどの木材として馴染みのキリもこの時期に花を咲かせる樹木です。公園内では、南側エリア展望デッキの近くに釣り鐘型で薄紫色の花をたくさんつけています。



④キリ

○鳥たちも繁殖期を迎え活発に

●この時期は鳥たちも巣作りのため、活発です。今年見かけた「ツミ」は、日本最小のタカで雀鷹と書きます。写真はメスで、30 cm程の体長に眼は黄色。オスはやや小さく25 cmほどで、翼の付け根がオレンジ色、眼が赤いのが特徴です。比較的身近な場所でも繁殖するようなので、毎年見られるようになるかもしれませんね。



ツミ



シジュウカラ

公園の中で一番耳にするのは、シジュウカラの鳴き声でしょうか。高音で「ツピー、ツピー」と響き渡るその鳴き声は20種類ほどあり、京都大学の研究グループによれば、人以外の動物で唯一、異なる意味を持つ鳴き声を文法に従って組み合わせ、文章をつくることのできるそうです。同種、多種の鳴き声を合成したもので、文法が正しければ理解することができ、順序が逆の場合は文法の違いを認識し行動に現れるそうです。普段の何気ない鳴き声も、何を言っているか想像して聞くと楽しいですね。

●野草の話（ムラサキツメクサ）

シロツメクサと同じシャクジソウ属のムラサキツメクサ。一般にアカツメクサとも呼ばれ、シロツメクサとの違いは色だけでなく、草丈が20 cm以上でスッと立っているのが特徴です。花が白色に変異した種類はセッカツメクサ（雪華詰草）と呼ばれるそうで、古河市民としては親しみを感ずります。（※）また別名シロバナアカツメクサと呼ぶそうですが、こうなると白なのか赤なのかややこしいですね（笑）
 （※補足：ちょっと脱線「雪華」の話）



ムラサキツメクサ

「雪の殿様」として知られる古河藩主土井利位が雪の結晶を「雪華」と名付け、20年に渡り研究し「雪華図説」を刊行。雪の結晶デザインは広く伝わり、工芸品、着物などへと取り入れられました。特に古河では街灯や歩道など街のあちこちで雪華模様が見られ、なじみ深いものになっています。公園の中にも雪華図説にちなんで「雪華園」と名付けられた庭園があるんですよ。（マップ⑥）

●新型コロナ感染防止対策に注意しつつ、公園を上手に利用してリフレッシュしてください。